

(24) み つ ば

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 根腐病 <i>Pythium aphanidermatum</i> <i>P. apleroticum</i> <i>P. sp.</i> 株枯病 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>apii</i>	1. 連作を避け、無病地を選ぶ。 2. 発病株は早目に抜き取り処分する。 3. 夏期高温時に出やすいので、遮光などをして温度上昇を防止する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. タチガレン液剤は根腐病にのみ登録がある。	発 病 初 期	32	タ チ ガ レ ン 液 剤
2 ベと病 <i>Plasmopara nivea</i>	1. 排水を良好にする。 2. 密植にならないよう、厚まきを避ける。 3. 被害葉を処分する。	根 株 養 成 期	M5	ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
		発 病 初 期	P7	ア リ エ ッ テ ィ 水 和 剤
3 立枯病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 連作を避け、無病地を選ぶ。 2. 発病株は早めに抜き取り、処分する。 3. 排水を良好にする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒は、Ⅲ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	-	ガ ス タ ー ド 微 粒 剤
		播 種 前	14	バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
		育 苗 期	U18	リ ゴ レ ッ ク ス 粉 剤
		発 病 初 期	14 U18	バ リ ダ シ ン 液 剤 5
4 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 過湿にならないように換気を良好にする。 2. 病葉、被害果を除去して埋める。	発 病 初 期	11	ア ミ ス タ ー 2 0 フ ロ ア ブ ル
5 菌核病 <i>Sclerotinia sclerotiorum</i>	1. 連作は避ける。 2. 発病株は早期に発見し、菌核をできる前に抜き取って処分する。 3. 排水を良好にし、過湿を避ける。 4. 密植したり、過繁茂にならないようにする。 5. 窒素過多にしない。 6. 夏期に湛水可能な圃地は、高温時に20日間以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。	発 病 初 期	1	ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤
6 アブラムシ類	1. 周辺雑草を防除する。 2. 飛び込み軽減のため、育苗床を防虫ネット(1mm目合以下)で被覆する。 3. 発病株は早めに処分する。	発 生 初 期	4A 4A 4A	ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤
7 ヒメフタテンヨコバイ (てんぐ巢病)	1. 肥切れしないよう、施肥を十分行なう。 2. 被害株は早めに抜き取り、処分する。			
8 ハスモンヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2. 飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット(4mm目合以下)で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アファーム乳剤はヨトウムシにも登録がある。	発 生 初 期	5 6 13	ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 ア フ ァ ー ム 乳 剤 コ テ ツ フ ロ ア ブ ル
9 キアゲハ	1. 育苗床では防虫ネット(4mm目合以下)で被覆する。 2. 幼虫は見つけしだい捕殺する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. カスケード乳剤はハスモンヨトウにも登録がある。	若 齢 幼 虫 期	6 15	ア フ ァ ー ム 乳 剤 カ ス ケ ー ド 乳 剤
10 ハダニ類	1. 圃場内及び周辺の雑草処理を徹底する。 2. 収穫残さは速やかに処分する。	発 生 初 期	6 6 15	ア フ ァ ー ム 乳 剤 コ ロ マ イ ト 乳 剤 カ ス ケ ー ド 乳 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する